

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 ハリケーン被害からの回復によって全体を押し上げ (05年11月鉱工業生産)

発表日：05年12月15日 (木)

～製造業の拡大トレンドは加速～

(No. UI-165)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率		生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	稼働率	製造業 (NAICS)	
04/11	+0.2	(+3.9)	+0.0	+2.0	+0.2	+0.6	▲0.0	▲0.5	+79.3	+77.7	+0.1
04/12	+0.7	(+4.4)	+0.4	+0.5	+2.1	+2.1	+0.4	+0.7	+79.7	+77.9	+0.1
05/01	+0.2	(+4.2)	+0.5	▲0.5	▲2.1	+4.5	+0.3	▲1.2	+79.8	+78.2	+0.1
05/02	+0.4	(+3.7)	+0.6	+1.0	▲1.2	+1.6	+0.4	+4.4	+80.0	+78.5	+0.1
05/03	▲0.0	(+4.0)	▲0.4	▲0.5	+3.0	+0.0	▲0.3	▲3.2	+79.9	+78.1	+0.1
05/04	▲0.1	(+3.1)	+0.0	+0.1	▲1.6	+1.7	▲0.1	▲1.7	+79.7	+78.0	+0.1
05/05	+0.2	(+2.4)	+0.4	▲0.7	▲0.2	+1.9	+0.3	+0.8	+79.8	+78.1	+0.1
05/06	+0.8	(+3.7)	+0.4	+0.9	+5.2	+1.0	+0.2	+2.4	+80.3	+78.2	+0.1
05/07	▲0.0	(+3.1)	+0.2	▲1.0	▲0.1	+2.2	+0.1	▲2.0	+80.2	+78.2	+0.1
05/08	+0.3	(+3.1)	+0.4	▲0.6	+0.3	+3.0	+0.2	+3.6	+80.3	+78.4	+0.1
05/09	▲1.6	(+1.7)	▲0.7	▲9.6	▲1.6	+1.6	▲0.7	+2.5	+78.9	+77.7	+0.1
05/10	+1.3	(+2.3)	+1.9	▲0.2	▲2.0	+1.1	+1.9	▲0.5	+79.8	+79.0	+0.1
05/11	+0.7	(+2.8)	+0.4	+4.8	+0.3	+2.6	+0.0	▲4.8	+80.2	+79.2	+0.1

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は前月比+0.7%と市場予想を上回った

05年11月の鉱工業生産は、ハリケーン被害を受けた石油化学、エネルギー関連産業の回復によって前月比+0.7%と増加基調が維持された。エアコン、住宅関連等の生産の改定で8、9、10月合計で0.4%ポイント上方改定されたうえ、市場予想の同+0.5%を大幅に上回っており、市場予想対比かなり強い内容となった。

ハリケーン被害からの復旧に伴い公益、鉱業が増加に転じたことに加え、製造業が拡大基調を維持した。特に、製造業では拡大した業種数が19業種中12業種と10月と同数となり、広がりを持った拡大となっていること、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+4.3%と10月の+3.4%から加速していることから、生産の拡大基調は徐々に強まっていると判断される。

今後も稼働率の上昇が見込まれ、利上げが継続される公算

11月の稼働率は生産能力が前月比+0.1%にとどまった一方、生産が同+0.7%となったため80.2と市場予想を上回った。他方、製造業の稼働率は79.2%と10月から0.2ポイント上昇した。今後の動向では、メキシコ湾岸一帯の原油やガス、化学、石油生産の回復が進むことで、生産の拡大ペースが加速するとみられる。一方で、稼働率の上昇が続いていることや、景気・売上・企業収益に対する経営者の楽観的な見方が強まっているため増産投資の拡大ペース加速が予想されることから、生産能力の拡大ペースが速まり稼働率の上昇ペースは抑制されるとみられる。

FOMC 声明文で、資源利用の拡大の可能性が潜在的なインフレ圧力を高めると指摘されたため、物価に加え失業率、稼働率への注目が高まっている。足下でも、長期金利が低い水準にとどまっていることで利上げ効果が弱まっており潜在成長率を小幅上回る成長が続いている。このため物価上昇率の一段の低下や失業率の上昇が予想し難い一方、

今後生産は堅調さを維持すると見込まれることから、稼働率の上昇は避けられない。その結果、適正な政策金利水準も上方シフトするとみられ、当面利上げが継続される可能性が高い。

製造業生産は19業種中12業種で拡大しており広がりを持っている

業種別では、鉱業はハリケーン「カトリーナ」「リタ」「ウィルマ」の相次ぐ襲来によって一時閉鎖や稼働停止に陥ったメキシコ湾岸の石油ターミナルが徐々に稼働を開始したため前月比+4.8%とプラスに転じた。公益は、天然ガスが同+1.0%とプラス基調を維持し、電力が同+0.1%と小幅ながら増加したため、全体でも同+0.3%とプラスに転じた。

製造業は、前月比+0.4%とプラス基調を維持した。セクター別では、自動車関連の生産は、自動車部品が前月比▲2.0%とマイナスに転じ、完成車が同▲8.1%となったため、同▲4.8%とマイナス幅が拡大した。従業員割引の一般購入者への適用が10月に終了したことによって自動車販売が減少した影響が生産にでた。しかし、自動車部門では米自動車メーカーが6、7、8、9月に従業員割引の一般購入者への適用を実施したことで、在庫が大幅に減少している。さらに、11月入り後の販促強化によって12月の販売回復が見込まれるため生産は拡大に転じる可能性が高い。

他方、ハリケーン被害からの復旧が進んだ石油・石炭製品が増加に転じ、化学の拡大ペースが加速した。また、堅調が持続しているハイテク関連は、コンピューターの堅調が続くもと、通信機器が鈍化した。半導体が加速したことにより同+2.6%（10月同+1.1%）と拡大ペースが速まった。基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも11月に+26.5%（10月同+27.9%）と高い伸びを維持するなど好調が持続している。

2006年1～3月期も製造業生産の堅調が見込まれる

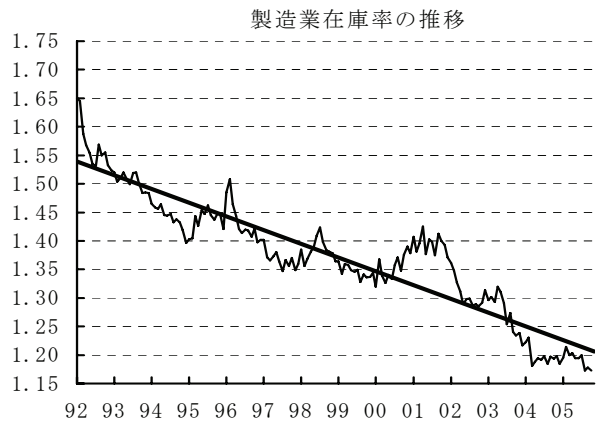
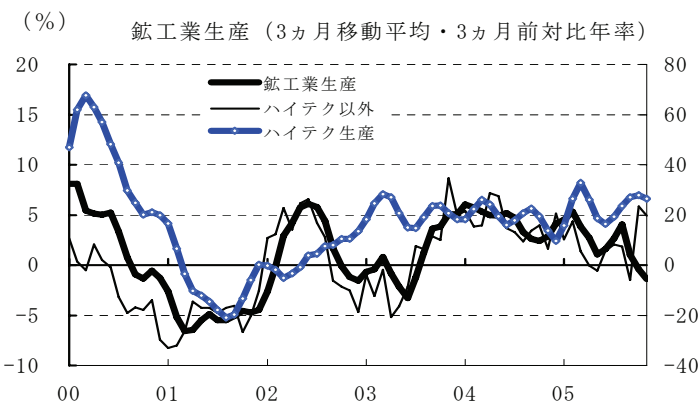
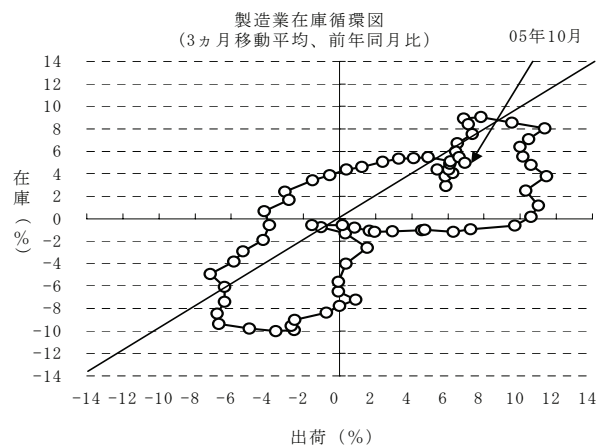
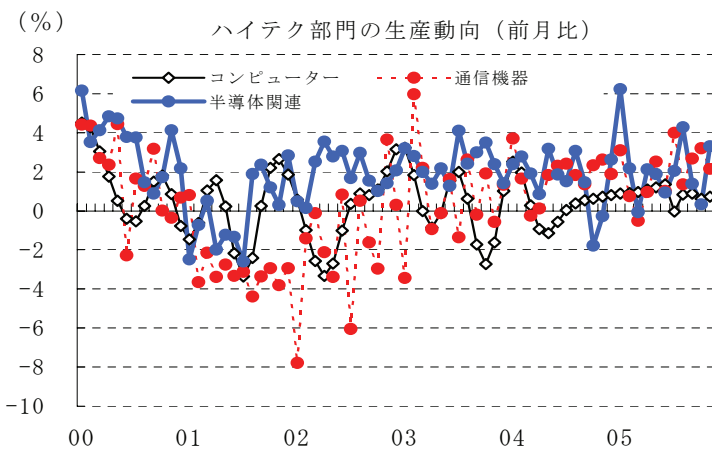
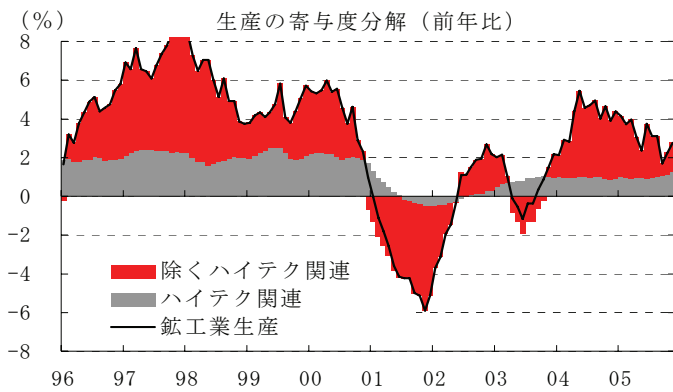
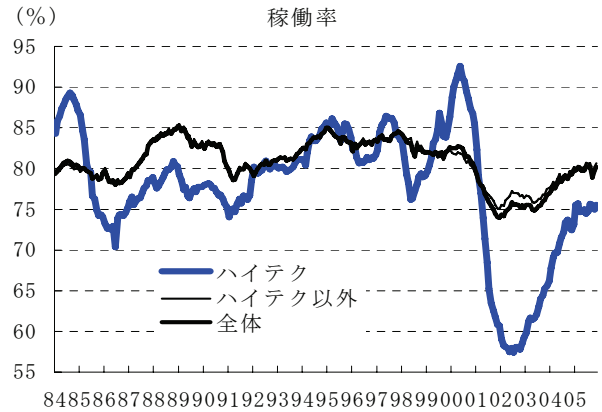
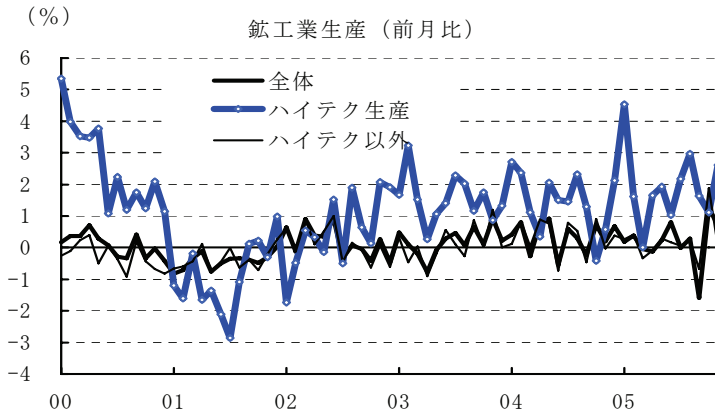
今後の動向では、メキシコ湾岸一帯の原油やガス、石油の生産での回復が進むことで、生産の拡大ペースが加速するとみられる。加えて、自動車部門では在庫が大幅に減少しているなか、車種によっては従業員価格よりも安くなる赤札販促を実施しているため販売増加期待され在庫の一段の減少によって自動車生産は拡大に転じると予想される。さらに、ハイテク部門では世界的なパソコン需要や米国内での通信機器需要が堅調さを維持するとみられ、生産が好調を保つと見込まれる。これらのことを勘案すると、12月の製造業生産は堅調さを維持する可能性が高い。

最終需要の動向では、個人消費は雇用・所得の拡大を背景に拡大基調が持続するとみられる。7～9月期に自動車販売が急増した反動によって10～12月期の個人消費は前期比年率で+1%台に一時的に鈍化すると予想される。しかし、足下で消費者マインド調査のなかの自動車購入計画がやや増加していることから、自動車販売の持ち直しが予想される。加えて、2006年1～3月期にはクリアランスセールやギフトカードの使用によって小売売上高は堅調に推移すると見込まれ、個人消費は再加速する可能性が高い。

一方、設備投資は①これまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、②キャッシュフローの拡大を背景に、好調を維持すると見込まれる。このような最終需要のもと、7～9月期に減少した在庫投資は、10～12月期以降に拡大が続くと予想される。輸出は、海外景気の拡大ペース加速によって10～12月期以降増加ペースが速まろう。

以上のことから、2006年1～3月期には潜在成長率を上回る成長が予想される。このような中、製造業生産は自動車部門に加えて世界的なハイテク部門の在庫積み増しを背

景に2006年1～3月期も堅調さを維持すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。